

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
第6学年				第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
学年	国語	算数	合計	学年	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+5	+5	+10	令和8年度の目標	+3	+3	+8	+8	+8	+8	+8	+8
令和7年度の結果	+3	+2	+5	令和7年度の結果	-0.2	+0.7	+7.3	+7.3	+4.2	+7.1	+5.1	+7.3
令和6年度の結果	+1	0	+1	令和6年度の結果	+0.8	-0.2	+1.6	+3.1	-1.0	+3.0	+7.4	+5.3
令和5年度の結果	+9	+3	+12	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容	目標	目標達成に向けた取組	目標達成に向けた取組	目標達成に向けた取組
学校全体	【成果】 ○国語・算数ともに校内研究を核とした授業改善を行うことで、既習を生かして学ぶとする姿が見られ、中学年以上で国語科「読むこと」の力が向上した。 ○算数では、算数少人数のC,D層の指導、日常的なベースック取り組みの改善により、基礎基本の内容が身に付き、学力の底上げを図ることができた。 【課題】 ○国語・算数ともに知識技能を活用する力に二極化の傾向が見られた。	○「自ら考え、学び合う子」を目指し、生きて働く学力を育てる。 ○日常の取り組みを通して、授業での学びを支えるために必要な基礎学力や語彙力を育てる。 ○習熟度別授業で、全員に四則計算を定着させ、上位層の活用力を向上させる。	○校内研究：年6回の研究授業、教材研究日を活用し、国語科説明の文章を切り口に組織的な授業改善を進める。 ○学習のまとめ：教師が示すのではなく、子供が自分の言葉で書く。 ○Study week：毎月第2週に実施し、各家庭と協力し児童が自律的に家庭学習する力を育てる。 ○よもYOMUワークシート：中学年で慣れ、高学年で考えをもち広げることを積み重ね、段階的に読解力の向上を図る。 ○ベースックデイ：前学年・単元までの四則計算を確実に定着させるようにする。 ○算数少人数指導：教材研究日等を生かして、単元の進行や軽重・難度を習熟度別に変更して計画する。	○1学期は、毎日の音読を通して、言葉や文を正しく読めるようにする。第2教材以降は、「問い」に対する「答え」を児童が自ら探して読めるような授業改善を行う。 ○1学期は、正しい姿勢や運筆で、ますます丁寧に書けるようにする。7月以降は、毎週末の「あの帳」を通して、ひらがなを使って文を書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。 ○1学期は授業やベースックの取組により、5や1の構成を毎日繰り返し読み、全員に定着させる。2学期以降は習熟度別算数を実施し、数々の構成を生かして上り上がり・くり下りの計算をできるようにする。上位層では、ブロックやアレイ図などを用いて立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。
第1学年	【成果】 ○「読むこと」の領域において、登場人物の行動と会話を自分で見つけ、叙述をもとに気持ちや想像をすることができた。 ○「数と計算」領域において、たし算とひき算の技能がおおむね身に付いた。 【課題】 ○既習の漢字を書くことはできるが、国語だけでなく他教科においても適切に使用することに課題がある。 ○国語・算数ともに、応用問題や記述式問題において問われていることを正しく理解できない児童が多い。	○文章の「問い」「答え」を捉えて読むことができる。 ○ひらがなを使って文を書くことができる。 ○家庭学習の習慣を身に付ける。 ○全員がたし算とひき算をできる。 ○上位層は、自分の考えを説明することができる。	○1学期は、毎日の音読を通して、言葉や文を正しく読めるようにする。第2教材以降は、「問い」に対する「答え」を児童が自ら探して読めるような授業改善を行う。 ○1学期は、正しい姿勢や運筆で、ますます丁寧に書けるようにする。7月以降は、毎週末の「あの帳」を通して、ひらがなを使って文を書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。 ○1学期は授業やベースックの取組により、5や1の構成を毎日繰り返し読み、全員に定着させる。2学期以降は習熟度別算数を実施し、数々の構成を生かして上り上がり・くり下りの計算をできるようにする。上位層では、ブロックやアレイ図などを用いて立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。	○1学期は、毎日の音読を通して、言葉や文を正しく読めるようにする。第2教材以降は、「問い」に対する「答え」を児童が自ら探して読めるような授業改善を行う。 ○1学期は、正しい姿勢や運筆で、ますます丁寧に書けるようにする。7月以降は、毎週末の「あの帳」を通して、ひらがなを使って文を書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。 ○1学期は授業やベースックの取組により、5や1の構成を毎日繰り返し読み、全員に定着させる。2学期以降は習熟度別算数を実施し、数々の構成を生かして上り上がり・くり下りの計算をできるようにする。上位層では、ブロックやアレイ図などを用いて立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。
第2学年	【成果】 ○「読むこと」の領域について、人物の行動と会話に着目して様子や想像をすることができた。順序を表す言葉を理解し、教科をまいて断片的に活用できた。 ○九九はおおむねの児童が習得した。基礎基本の四則計算の技能は、大半の児童は習得した。 【課題】 ○「書くこと」の領域について、習得した漢字を日常的に使用することを怠っている。 ○単位換算の計算が課題。繰り上がり、繰り下がり等の基礎基本の計算の技能は、一部の児童に課題が残る。計算はできるが、計算式の説明ができない児童が多い。	○順序に気を付けて読んだり説明したりすることができる。 ○かたかなや学習した漢字を使って文を書くことができる。 ○家庭学習の習慣を身に付ける。 ○全員がたし算・ひき算の筆算と、かけ算九九をできる。上位層は、自分の考えを説明することができる。	○第1教材では、時間の順序に気を付けて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」「話す・聞くこと」において、順序に気を付けて伝える力を育てる。 ○1年生で学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。毎週末の日記を通して、漢字などを使いながら経験したことを書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。 ○1学期、未習の段落からかけ算九九を教え、2学期終了までに全員に定着させる。ベースックの取組を通して、基礎的な上り上がり・くり下りの計算をできるようにする。長き単元では、ものさしで長さを測定する活動に繰り返し読み、技能を定着させる。年間を通して習熟度別算数を実施する。上位層では、図や表を取り扱うときに立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。	○第1教材では、時間の順序に気を付けて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」「話す・聞くこと」において、順序に気を付けて伝える力を育てる。 ○1年生で学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。毎週末の日記を通して、漢字などを使いながら経験したことを書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。 ○1学期、未習の段落からかけ算九九を教え、2学期終了までに全員に定着させる。ベースックの取組を通して、基礎的な上り上がり・くり下りの計算をできるようにする。長き単元では、ものさしで長さを測定する活動に繰り返し読み、技能を定着させる。年間を通して習熟度別算数を実施する。上位層では、図や表を取り扱うときに立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。
第3学年	【成果】 ○漢字の読み書きの力、文法的文章において登場人物の心情を想像する力が身に付いた。 【課題】 ○「言葉の働きや使い方」「情報の扱い方」「説明的文章」単元において、反対の意味の言葉、主語と述語の関係、説明的文章の内容把握に課題があった。 ○「数と計算」領域において、繰り上がり・繰り下がり等のある筆算やかけ算の性質の技能が一部の児童に身に付いていない。また、「活用、問題」において考えを説明する力には、二極化の傾向があった。	○段落の役割や関係に気を付けて読み、段落の中心（要点）を捉えることができる。 ○語彙を豊かにし、学習した言葉や漢字を使うことができる。 ○家庭学習では、自分に合う学習方法を考え取り組むことができる。 ○全員がたし算・ひき算・かけ算の筆算と、基本的なわり算をできる。	○第1教材では、「問い」の設けかたに、筆者がどんな事例で説明しているか、段落の中心を考えて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」の領域において、段落を分け、事例を用いて説明する力を育てる。 ○4月に国語読典の扱い方を指導し、辞書引きや助言を通して日常的な使用を促す。2年生までで学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。毎週のよもYOMUワークシートでは、初めて読む記事について簡単な問題に取り組み、家庭での漢字学習は、一律の方法で出さず、書き取り・言葉集め・短作文などから自分に合った取り組み方を選んで学習できるようにする。 ○習熟度が低い児童は、導入での問題練習やベースックの取組を通して、かけ算九九などの基礎的な計算を確実にできるようにする。コンパスや分度器の扱い方を繰り返し練習して身に付けさせる。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組み時間を設定する。	○第1教材では、「問い」の設けかたに、筆者がどんな事例で説明しているか、段落の中心を考えて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」の領域において、段落を分け、事例を用いて説明する力を育てる。 ○4月に国語読典の扱い方を指導し、辞書引きや助言を通して日常的な使用を促す。2年生までで学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。毎週のよもYOMUワークシートでは、初めて読む記事について簡単な問題に取り組み、家庭での漢字学習は、一律の方法で出さず、書き取り・言葉集め・短作文などから自分に合った取り組み方を選んで学習できるようにする。 ○習熟度が低い児童は、導入での問題練習やベースックの取組を通して、かけ算九九などの基礎的な計算を確実にできるようにする。コンパスや分度器の扱い方を繰り返し練習して身に付けさせる。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組み時間を設定する。
第4学年	【成果】 ○「			